

養蚕教師

高山社の最も優秀な卒業生は、養蚕の指導者（養蚕教師）になることを求められた。彼らは養蚕の手法と技術を広めるため、日本中に派遣された。教育の依頼のほとんどは養蚕組合から寄せられたが、地元の行政担当者も支援を必要とした。

高山社は、広いエリアに対応したり、同時に多くの養蚕組合にサービスを提供したりする場合、複数の講師を派遣することもあった。高山社のサービス利用者は、教師の交通費と高山社のカリキュラム修了後の利益の分け前について、同社との契約書にサインすることを求められた。

高山社の規則には、入社3年以上経過し追加試験に合格していること、業務の専門知識を有していることを条件とし、該当する卒業生に社長が免許を付与すると記載されている。専門的な能力を有するだけでは不十分だった。社長が認定書を与えたのは、高い道徳的基準を有するのと高山社の名前で安心して仕事を任せられる者だけであった。

この規則によれば、教師とそのアシスタントには、毎年定期的に試験を受けることも義務付けられており、継続的に業務を委託するか否かは、試験の成績次第であった。このようにして、教師の技量、質、専門知識の持続を保証することが可能になった。各地を回る教師は、しっかりと学生を観察し、進捗を記録することを求められた。また、一日の終わりには、地元の蚕農家に向けて養蚕の講義を実施した。指導を受けた人たちは、より多くのより良い蚕の繭を生産できるよう教師が支援してくれたことについて、感謝の手紙を送ることも多かった。